

1 指導概要

教 科		科 目		
家 庭		家庭基礎	単位数： 2単位	
指導目標：生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。				
メディア視聴		事情に応じて許可（東京書籍） ①視聴講座を 100%視聴 ②確認テストクリア	認定単位 時間数の 60%	教科書 家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍 家基 701）
スクーリング		1 単位時間×4 回	合格時間 数 4 時間 以上	学習図書 自校作成の教材資料を使用
レポート		全 6 回	合格枚数 各 6 回	副教材 東京書籍インターネット講座 NHK 高校講座
回	高校通信教育講座 (単元・学習内容)		レポート (提出期 日)	スクーリング (日程と内容)
1	家庭基礎の学び方 第1章 生涯を見通す(P12～21) 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる 第2章 人生をつくる(P22～37) 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会		第1回 (5/30)	第1回 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践することが出来る。 ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描き、表現してみる。 ・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。
2	第3章 子どもと共に育つ(P38～63) 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境 第4章 超高齢社会を共に生きる(P64～77) 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 これからの超高齢社会		第2回 (6/30)	第2回 ・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解し、問題点を話し合う。 ・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考えさせ、発表する。
3	第5章 共に生き、共に支える(P78～85) 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる 第6章 食生活をつくる(P86～125) 1 食生活の課題について考える		第3回 (7/30)	 ・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。そのうえで、現代社会に何が必要かを議論し、発表する。 ・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理

	2 食事と栄養・食品 3 食品の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎			解する。
4	6 食生活の文化と知恵(P126～133) 7 これからの食生活 第7章 衣生活をつくる (P134～163) 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	第4回 (9/30)	第3回	・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を調査し、実践的に理解する。 ・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。
5	第8章住生活をつくる(P164～183) 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	第5回 (10/30)	第4回	・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。防災の問題点や改善点を探究し、話し合い活動を行う。
6	第9章経済生活を営む(P184～199) 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 これからの経済生活 第10章持続可能な生活を営む(P200～207) 1 持続可能な社会を目指して 第11章これからの生活を創造する(P208～213) 1 生活をデザインする	第6回 最終提出： (11/28) 提出予備日： (1/15)		・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考え、自分の意見を発表する。

2 評価の観点

知識・技能	テストの結果で評価します。
思考・判断・表現	レポートの最終問題で評価します。
主体的に学習に取り組む態度	スクーリング時に取り組む姿勢や、成果物で判断します。 ※メディア視聴の成果もこの観点で評価します。

3 評価の方法

上記の観点に基づき、年度末に5段階で評定を出します。 【知識・技能】テスト結果(7割) 【思考・判断・表現】レポート最終問題(2割) 【主体的な態度】スクーリングの時の成果物(1割)
--

4 担当者からのメッセージ

家庭基礎では、スクーリングへの出席(取り組む姿勢)、レポートの提出(レポートの内容)、試験結果を総合的に判断し、評価します。生涯を見通して生活の課題を解決する能力を養い、自立した生活者として、様々な人々と関わり合う中で、他者の立場を考え、多様な意見や価値観があることを踏まえつつ、よりよい生活の実現を目指します。教科書を読み、各回の範囲を予習し、レポートをできるだけ完成させた上で面接指導にのぞむことを推奨します。また、NHK高校講座の視聴も基本的な家庭基礎を理解するのに役立ちますので、活用してください。
